

「お兄ちゃん、今日の占い最下位だって」

スーパーサイヤ人5

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

最後が適当になってしまいましたでしたがよろしく願います

pixivにも掲載していますのでそちらもよろしく願います

目次

「お兄ちゃん、今日の占い最下位だったって」

1

「お兄ちゃん、今日の占い最下位だつて」

小町「MとHに気をつけてだつて。」

八幡「占いなんて信じてたらきりがないぞ。」

小町「分かつてないなくお兄ちゃんは。こういうのは何気ない日常にドキドキやわくわくをくれるのが楽しいんだよ。」

八幡「つてか占いのラッキーパーソンとか眼鏡はまあ分かる。でも写経とかは訳がわからん。」

小町「そんなのは持つてたらラッキー位の感覚でいいんだよ。え〜とお兄ちゃんの場合は、、、、七福神の人形だつて。」

八幡「七福神つて7体全部持つのかよ。持ちきれないしそもそも持つてない。」

小町「持つてる人なんているのかな？あ！そろそろ行かないと遅刻しちゃう！お兄ちゃん行くよ！」

八幡「俺が送つてくのは確定なのね。まあ良いけど。」

小町「それじゃあレッツゴー！」

八幡「おう。シャコシャコ」

小町「それにしてもMとHには気を付けろつてそもそもMとHつてなんだろうね？」

八幡「さあな。小町もそんな事気にせずに勉強の事を考えとけ。今年受験生だろ。」シャコシャコ

小町「そういうこと言うなんて小町的にポイント低いよ。」

八幡「へいへいそうですか。つと着いたぞ。」キー

小町「ありがとね。それじゃあ、いってきまーす。」

八幡「おう。」

八幡 学校到着

由比ヶ浜「あ、ヒツキー。やつはろー。」

八幡「由比ヶ浜か、おはようさん。」

由比ヶ浜「っ!!」

八幡「なに驚いてんだよ？」

由比ヶ浜「い、いやーヒツキーがちゃんと挨拶返してくれるから珍しいことがあるんだなって思ってた。」

八幡「そりゃあ、知ってるやつから挨拶されたら返すだろ。」

由比ヶ浜「そ、そうだよね。」

八幡「?由比ヶ浜なんかお前おかしくないか？」

由比ヶ浜「え!?!ふ、普通だし。ほら教室行くよ。」

八幡「あ、おう。」

そして昼休み

由比ヶ浜「ヒツキー起きて!もう昼休みだよ」

八幡「、、あと5時間zzzzz」

由比ヶ浜「寝すぎだし!ほら起きて!」

八幡「分かったよ、起きる」

由比ヶ浜「やっと起きたし。もう、言いたいことがあるんだからちやんと起きててよ。」

八幡「起きたんだからいいじゃねえかよ。それで?言いたいことつて何?」

由比ヶ浜「え!?!えくとそのく何て言うか、、、、よし。ヒツキー!!」

八幡「うお!何だよ急に大声だして。」

由比ヶ浜「えつとね

私に首輪して!!」

八幡「、、、、、、は？」

由比ヶ浜「だから、私に首輪して!」つ 首輪

八幡「お前自分が何言ってるか分かってるのか?」

由比ヶ浜「あ、安心してリードもあるから」

つ リード

八幡「何も安心できねえよ!!むしろ悪化してるわ!」

由比ヶ浜「そんな!勇気を出してヒツキーをお願いしてるのに!ほら、ここにヒツキーって書いてあるよ!これで私をヒツキーのものにして!」

八幡「いやいや、お前マジで何言ってるの?しかもこんな教室のど真ん中で。周り見てみろよみんな見てんだぞ。」

由比ヶ浜「これで公認の関係だね!」ニコ

八幡「いい笑顔で何言ってるんだよ。」

葉山「結衣。比企谷が困ってるだろ。止めておくんだ。」

由比ヶ浜「隼人くんには関係ないじゃん!引っ込んで!」

葉山「そう言うわけにはいかないんだ。比企谷は俺と一緒にいるんだ。」手をギユ

八幡「手を繋ぐな!気持ち悪い!」

葉山「酷いじゃないか比企谷。俺とお前の仲じゃないか。」

海老名「ハヤハチキター!」ブシャー

戸部「うわー海老名さんが今までで見たことないくらいの笑顔で見たことないくらいの鼻血がー!」

三浦「姫菜ー!ちよつとこれチーンどころじゃないし!誰か輸血!メデイーツク!」

八幡「おい。お前らの友達が大変なことになってるぞ!」

葉山「姫菜なら大丈夫さ。さあ、比企谷俺と一緒に!」

由比ヶ浜「ヒツキー私もお願い!」

つ首輪&リード

海老名「我、、、生、、、涯に、、、一片の、、、悔い、、、な、、、し」ガク

三浦「姫菜ー!」

葉山「さあ比企谷!」

由比ヶ浜「ヒツキー!」つ首輪&リード

八幡「い、いやだああああ!!」ダダダ

葉山「比企谷!」ダダダ

由比ヶ浜「ヒツキー！」ダダダ
八幡「いやああああああ!!」ダダダ

奉仕部部室

ガラ

八幡「雪ノ下！匿ってくれ！」ダダダ

雪ノ下「!!サツ、な、何かしら、ノックも無しに入ってくるなんて非常識にも程があるわよ。」

八幡「悪い。だけど今はそれどころじゃないんだ。葉山と由比ヶ浜に追いかけてらんだ。」

雪ノ下「いったい何をしたらそんなことになるのかしら。事と次第では」つ携帯

八幡「待て！俺はなにもしてない。実は由比ヶ浜が首輪とリードを自分に付けてくれて言い出して、それを見た葉山が比企谷は俺のだから言っって手を握ってきたんだ。もう何が起こってるか俺にも訳が分からないんだ。」

雪ノ下「そう。由比ヶ浜さん、遂に動いたのね。」

八幡「雪ノ下、お前知ってたのか!？」

雪ノ下「ええ。実は私もそれを聞いてお願いしようと思っていたの。」つ首輪&リード

八幡「お前もかよ!!」

雪ノ下「さあ。比企谷君。」シリシリ

つ首輪&リード

八幡「待て！少し落ち着け！」

雪ノ下「落ち着いているわ。だから、さあ！」ハアハア

八幡「来るな！後、息荒いぞ。マジで怖い！」

由比ヶ浜「ヒツキー見つけたよ！」バーン

八幡「くそ！ベストプライスの方に行くと思ったのに！」

葉山「甘かったな比企谷。」バーン

八幡「しまった！変態共が揃っちゃまった！」

雪ノ下「ふふふ、もう逃げられないわよ。」

ジリジリ

由比ヶ浜「ヒツキー観念して！」ジリジリ

葉山「比企谷」ジリジリ

比企谷「い、いやあああああ!!」

八幡「あああああああ!!」ガバ
八幡「はあはあ。ゆ、夢か。なんつう夢だよ。頭に残っちゃまって
る。」

つ携帯

八幡「オツケーーG o o g l e 記憶を消して。」